

入会一年を顧みて

東京町田 阿部 恒雄

入会の目的は実に単純そのものだった。即ち修養と奉仕である。メンバーとなって多種多様な驚く。今更後に退けない。ロータリー哲学とは何か。徹底して探究しようと試みた。出張先のクラブに知人友人がロータリアンであるこ

とを知り、積極的に他クラブ例会にも出席した。他地区年次大会に九回出席、先輩の一言一句、一挙手一投足に耳目を傾ける。参考文献も五〇余冊、創立四十年以上経たクラブの例会にはほとんど出席、記念誌も入手乱読した。入会式一年を経た今年四月、出席率を計算してみたが二四五%余。ロータリー哲学の究明というより新入会員であるという初心の意欲がこの積極さをもたらしただけである。

そこで感じたことだが、出席クラブ事務局に前もって電話をする。その事務局員の応答で例会運営のあり方がほぼ推察できた。東京、大阪各クラブ事務局員実に親切でさすがと感心す。神奈川、福岡各県内某クラブ事務局員、一方的

に話し電話器ガチャン、例会の扱いは推して知るべし。出席して心から感謝のわいてくるクラブ、会員同士の歓談に夢中で私の存在を無視するクラブ、会員同士が歓談してると思えぬ型通りのクラブ、もう一度出席してみたいと思ったクラブは京都、空港で、駅その他でのロータリアンの態度、ロータリーソングの歌詞とはほど遠い現実。

ロータリーの原点は、社会構造が高度化されるにつれ、その便利さのなかで孤独感が深くなる。そこで親睦を中核とするロータリー運動の必要性が生じたと先輩から聞く。ロータリーの歩みの形態も歴史的観点からみれば、まず相互

扶助から始まり、職業奉仕を生み、社会奉仕、国際奉仕が生れ、クラブ奉仕を加えて四大奉仕部門となったと教えられる。即ち社会の変遷に順応し、形態を変え、ロータリーが歩むべきだということであろう。

今ロータリーは内部充実のためにも変遷期に直面してはなからうか。

友情と寛容なくしてロータリーの前進はあり得ない。四大奉仕部門で今最も求められているのは国際奉仕であると私は考えるが、今最も大切なのは親睦委員会であり、ロータリーの充実のためには四大奉仕部門と並び称される不可欠な委員会だと思われてならない。

中小都市で、ライオンズを知ってるがロータリーは知らないと答える人が圧倒的に多い。地域社会から遊離しない謙虚な態度も必要。ロータリーの運営も管理助成方式から指示指導方式にみえる場合もあるようだが。(ゴルフコース設計)